

⑤ 東播磨港 たかさご 高砂西港再整備事業

受賞機関 兵庫県 東播磨県民局 加古川土木事務所

全建賞審査委員会の評価ポイント

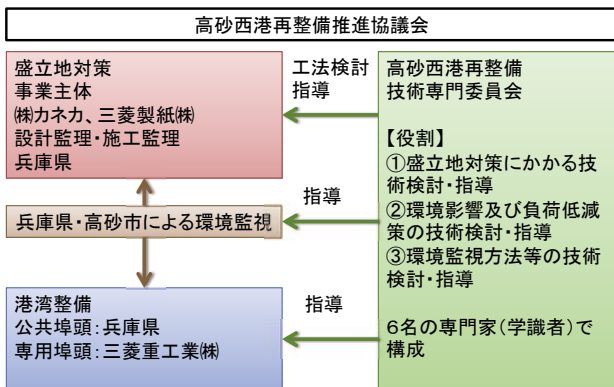
岸壁水深の不足、汚染土を封じ込めた盛土の安全確保などの課題がある高砂西港及びその周辺で、港湾を再整備した事業。港が抱える課題について、一体的に検討を行い、住民の安全・安心と地域活性化を図ることを目的に、市民、企業、専門家、行政で構成する協議会を設け、計画策定や事業実施において、住民や企業等の関係者間の「参画と協働」と「透明性確保」を実現したことを評価。

1. はじめに

高砂西港は、高砂市臨海部のほぼ中央に位置し、昭和40年代の埋め立てによって整備された地域の物流機能の中心的な役割を担う港である。しかし、①岸壁水深の不足、②PCB（ポリ塩化ビフェニル）汚染土を封じ込めた盛立地の安全確保、③失われた親水空間といった課題を有していた。特に、盛立地に対する住民の不安は大きく、高砂西港を安心・元気・未来のある地として再生する必要があった。そのため、約10年かけ、市民、企業、専門家、行政の参画と協働のもと、透明性を確保しながら再整備事業を推進し、平成28年3月に完成した。

2. 事業の概要

高砂西港及びその周辺が抱える課題について、港湾整備、盛立地の安全性の確保、親水空間の創出といった視点から、一体的に検討を行い、住民の安全・安心と地域活性化を図ることを目的に、行政と市民、企業、専門家で構成する「高砂西港再整備推進協議会」を設置し、計画を取りまとめた。また、整備が完了するまでの事業経過及び環境監視の結果は、協議会にて報告し、透明性を確保した。



高砂西港再整備推進協議会の取組み

3. 事業の成果

(1) 港湾整備

公共ふ頭は、兵庫県が前面の泊地浚渫（6万m<sup>3</sup>）を行い、計画水深（-5.5m）を確保することで、3バースを有効活用できるようにした。

専用ふ頭は、三菱重工業株式会社とその浚渫土を活用し、前面泊地の一部を埋め立て、荷捌き地及び岸壁1バースを新設し、600t吊のジブクレーンを設置した。なお、浚渫土の活用にあたっては、工事着手前に底質調査を行い、問題ないことを確認している。

(2) 盛立地

遮水性を向上するため、盛立地外周部に深さ約15mの土留め壁を設置するとともに、大規模地震による崩壊を防ぐため耐震擁壁による補強を行った。また、盛立地上面は、既被覆上部に、さらに遮水シートを敷設したうえで、50mmの密粒度アスコンで被覆した。

なお、整備にあたり株式会社カネカと三菱製紙株式会社が施工し、第三者の目として、県が設計監理・施工監理を行い、県・市が環境監視を行った。

(3) 親水空間の整備

県が瀬戸内海はもとより産業活動を一望できる展望公園を海面から7mの高さに、三菱重工業株式会社が港と一体的な臨港公園の整備を行った。



高砂西港航空写真（平成29年6月撮影）

4. おわりに

高砂西港は、住民のPCBへの関心の高い場所であったことから、計画策定や事業実施において、関係者間の「参画と協働」と「透明性確保」が不可欠であった。住民や企業等から多くの意見が出て、事業の執行が危ぶまれた時期もあったが、関係者が粘り強く取り組んだ結果、事業は約10年間で完成出来た。このため本事業は、市民、企業、専門家、行政が連携した画期的な取組みであり、これは他事業においても参考になると考える。

賛助会員 いであ(株)、(株)エイト日本技術開発